

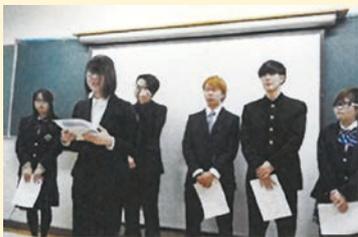
# 広報・教育部門

## 行政と高校がコラボした下水道 PR

北海道芦別市・星槎国際高等学校本部長

全国で在校生が約5千人の広域通信制「星槎国際高等学校」で開催された全国一斉授業（平成28年11月）において、北海道芦別市の本部長の生徒が、芦別市の珍しい星座マンホールに着目した地域活性化策「芦別再盛！『芦別マニア』」をPBL（問題発見・解決型学習）実践発表として提言しました。これを契機に、平成4年に供用してから25周年を迎えた芦別市の「下水道事業」をPRするため、芦別市と星槎国際高等学校本部長がコラボレーションして約1年間にわたり様々な取組を実施しました。

### 星座マンホールに着目した地域活性化の提案 芦別再盛！「芦別マニア」



PBL 実践発表



イベント出展(芦別市内3会場)



カップミーティング(市民向け講座)

### コラボ「あしべつ×SEISA」 「下水道25周年記念缶バッジ」作成や下水道授業の実施



生徒が作成した記念缶バッジ



星槎祭



市職員による授業

### PRポイント!

星槎国際高等学校では、**高校生が記念缶バッジを作成**して、各種イベントで出展したほか、学校祭において実物マンホールや有機肥料等の展示ブースを設置しました。また、「オープンキャンパス」や「カップミーティング」等において取組内容を発表しました。

芦別市では、**全校生徒向けの「下水道授業」を実施**したほか、生徒達の提案を具現化すべく、マンホールカード（平成29年8月から配布）や独自のマンホールマップ、マンホールカレンダーを作成するなど**年間を通じて対外的にPR**しました。

### 取組の効果!

将来を担う子供達に対して、当たり前のようにある「下水道」の役割や施設の更新費用の必要性、水循環を理解してもらった絶好の機会となりました。

また、記念缶バッジの作成や各種イベント出展、学校祭等での「下水道事業」のPRにより、四半世紀にわたり芦別市を支えてきた「下水道事業」を、市民に改めて理解していただけました。さらに、マンホールカードや独自のマップを作成したことで、**地元メディアやSNSに取り上げられ、北海道内外からマンホールにも足を運んでいただいています。**

### Key Person



星槎国際高等学校 (H28年度卒)  
坪田 真

きっかけは、学校の授業でした。総合的な学習の時間でテーマを「地域」として、自分達が芦別を盛り上げるためにできることを探していました。なかなか良いアイデアが出ずに悩んでいた時に、通学中、ふと足元を見ると、他の地域ではあまり見られない星座がモチーフになっているマンホールが至る所に設置してあることに気づいたのです。この度は、素晴らしい賞に選んでいただき、大変嬉しく思います。私はもう卒業して2年が経ちましたが、後輩たちの新たな挑戦が成功することを祈っております。